

名寄市立大学での1年間の学校生活

抱きながら、名寄という街に生まれました。私は、幼少期から周りがビルに囲まれているような地域で育ちました。だからこそ、自然豊かな名寄での生活を楽しみにしていました。

4月の入学式、雪の降っている中、緊張感とワクワク感をもって名寄市立大学へ入学しました。名寄市立大学に入学して良かったことは、

自然の中で仲間と遊ぶことの楽しさを知ることができたことです。社会保育学科では、川遊び、森の中では、鬼ごっこ、スノーウォークなど、名寄の自然を生かした授業があります。そのような授業の中では、普段関わらないクラスメイトと関わる機会がありました。様々な活動を通して、その人に抱い

ていたイメージとは全く違う一面がみられたり、好きなものが共通していたり、多くの発見がありました。久しぶりに仲間とともに童心に返り、目一杯遊びを楽しむことは、社会保育学科だからこそ出来た経験だと思えます。

授業の一環で行われた運動会で、私は学生リーダーを務めました。その経験で仲間の大切さを知ることができました。企画運営の班で話し合いをする際、様々な意見が出ましたが、その意見を真面向に否定する人は誰1人いませんでした。企画を実現させる上での問題を共に考え、問題解決に向かって話し合いを重ねて、互いに助け合いながらより良い運動会にしようと準備を進めました。

企画運営に関わっていない人も「準備、大丈夫そう？」などの声掛けとともに手伝ってくれました。運動会後には「運動会楽しかった！ありがとう！」と感謝を伝えることができました。仲間と出会って、心の底から良かったと感じています。これからも、仲間との関わりを大切にしながら、大学生活を楽しんでいきたいです。社会保育学科1年 奥山優斗

